

3月24日(土)まで
関西学院大学博物館 平常展
「Gift for the Future 関西学院のあゆみ
ーニュートンと時計台ー」

関西学院大学博物館では「Gift for the Future 関西学院のあゆみ」と題する平常展をシリーズで開催してきました。博物館を訪れてくださる皆さんとともに関西学院が歩んできた道のりを振り返り、未来を築く礎とします。

今回のテーマは「ニュートンと時計台」。アメリカ生まれの第3代院長 J. C. C. ニュートン(1848-1931)は、17歳で南軍の一員として南北戦争に従軍した体験から、宣教と教育への献身に目覚めました。

1888年来日。翌年、関西学院の創立とともに神学部長に就任、1916年に第3代院長となるなど創設期の学院でリーダーシップを発揮しました。常に自宅を開放し、「神のような生活」と「精神を傾けた教育」で学生を育てました。

関西学院大学図書館は、ニュートンが来日時に持ち込んだ書物でいっぱいのトランクを開放したことから始まりました。「書籍館(しょじやくかん)」と呼ばれ、のちに図書館と名称が改められ、ニュートンが初代と第3代の図書館長を務めることになります。

本展は、図書館の創設と発展に尽力したニュートンと、西宮上ヶ原キャンパス移転時に図書館として建てられた時計台に注目。展示資料として、ニュートン直筆の原稿や著書なども紹介しています。

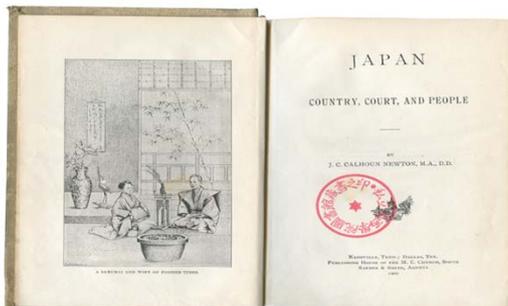
■展覧会名: 平常展「Gift for the Future 関西学院のあゆみ ーニュートンと時計台ー」

■会期: 2018年3月24日(土)まで

■場所: 関西学院大学博物館(時計台2階展示室)

■休館日: 毎週日曜日・3月21日(水)

■入館料: 無料



Japan (1900年) 日本の歴史や文化を紹介したニュートンの著書

2017年度ユニーク卒論・修論のご紹介



関西学院広報室ではこの時期、3月に卒業を迎える学生の卒業・修士論文について、ユニークな視点に立つものや丹念な調査による特徴のある論文を各担当教員の推薦で募集し、紹介しています。今年は29本を紹介します。

紹介する論文の中には、インフルエンザの流行を総合病院から得た匿名化されたデータを解析し、病気の性質や患者の動向を探った理工学部の学生らによる「SIRモデルによるインフルエンザ患者数動態の数理解析」、日本の子どもの貧困をテーマに大切な支援策は何かを考えた人間福祉学部の学生による「子どもの貧困問題に対する一考察」があります。

また、「ロード・オブ・ザ・リング」(指輪物語)の原作者J.R.R. トールキンの作品「星をのんだかじや」をもとに、教育学部の学生が布とフェルトで制作した絵本「ようせいのくになってあるのかな」など、制作物も紹介しています。

各担当教員が推薦する29本の卒業・修士論文の概要や推薦理由は下記で公開しています。

●2017年度ユニーク卒論・修論

『ホームページTOP』-『ニュース・イベント』-『報道発表』-『2017年度ユニーク卒論・修論のご紹介』

ご関心のある論文がありましたら、広報室までお問い合わせ下さい。

